

企画展

発見！日本の生物多様性

～標本から読み解く、未来への光～

Special Exhibition

Preserving Japan's Biodiversity for the Future: Clues from Natural History Collections

日本列島は、豊富な固有種をはじめとする特徴的な生物相が見られる地域です。

一方で、現在では多くの種が絶滅の一手手前の危機的状況にあり、中には既に絶滅してしまった種も存在します。

標本などのコレクションが、日本の生物多様性の変遷と現状の把握、さらには実際の種の保全に対してどのように貢献しているのか、貴重な標本や関連資料の展示の中から「発見」していただくことを目指した企画展です。

日本から絶滅寸前の生物が語ること

代表的な日本の絶滅寸前種（絶滅危惧I類）



チシマラッコ



オオウラギンヒョウモン



アマミデンダ

絶滅からの「復活」を遂げた種

- シマクモクリソウ ●ムニンキヌラン
- ホソバノキミズ ●カバイロチャダイゴケ
- ハハシマアコウショウロ ●トキ
- クニマス ●カドタメクラチビゴミムシ



シマクモクリソウ

日本から絶滅した生物の標本が上野に集う

- ニホンオオカミ ●ニホンカワウソ ●チョウザメ
- マミジロクイナ ●シマハヤブサ ●エンザガイ
- トキモウダニ ●イオウジマハナヤスリ
- コウヨウザンカズラ ●サガミメダヒ
- オウミコゴメグサ ●クモイコゴメグサ
- タカノホシクサ ●チャイロテンツキ ●アミラツパタケ

最後の目撃は1979年



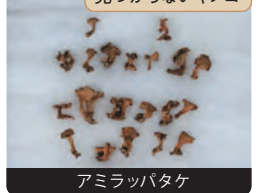
ニホンカワウソ

1966年に1回だけ採集されたシダ植物



コウヨウザンカズラ

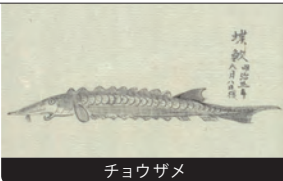
1914年以降見つからないキノコ



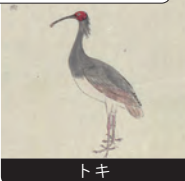
アミラツパタケ

絶滅種・絶滅寸前種を克明に記録した博物図

『両羽博物図譜』に描かれた日本の絶滅動物



チョウザメ



トキ

ラン科植物絶滅寸前種原因

標本をもとに緻密に描かれ、今日でも新種記載に欠かせない植物の標本図（中島陸子画）



タンザワサカネラン

標本をたくさん集めると何がわかる？

博物館標本から生化学・分子生物学的な情報を取り出すミュゼオミクス

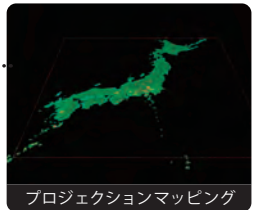
古い標本のDNAを分析し、絶滅個体群の正体が判明！



1910年父鳥産のメグロ標本

生物多様性情報学

標本から得られた情報を地図上に落としこむと、日本の生物多様性の今が見えてくる！



プロジェクションマッピング

日本の生物多様性を守るために～博物館での取り組み～

種の特性の把握

希少な新種を発見し、種の保全を図る



ツクバハコネサンショウウオ

リビングコレクションの活用

野外では絶滅してしまった植物の野生復帰を目指す



コシヤハホシクサ

※『両羽博物図譜』より 表面 ニホンカワウソおよびトキ 裏面 チョウザメおよびトキ 所蔵：酒田市立光丘文庫 ※裏面 チシマラッコ 写真提供・所蔵：根室市歴史と自然の資料館

国立科学博物館 [東京] 上野公園

National Museum of Nature and Science (Ueno Park, Tokyo)
日本館1階企画展示室および中央ホール



お問い合わせ：国立科学博物館ホームページ
<https://www.kahaku.go.jp/>
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL 050-5541-8600 (ハローダイヤル)
FAX 03-5814-9898



アクセス 当館には駐車場および駐輪場はございません。

JR/「上野駅」公園口から徒歩5分

東京メトロ銀座線・日比谷線/「上野駅」7番出口から徒歩10分

京成電鉄/「京成上野駅」正面口から徒歩10分

入館に際しての注意事項

- 入館の際は、当館ホームページでの事前予約が必要です。
- 入館前に検温、体調等の確認をし、発熱等がある場合は入館をお断りします。
- 入館中はマスクを着用し、咳エチケットを心がけてください。
- ※入館方法の詳細等については、当館ホームページをご覧ください。
<https://www.kahaku.go.jp/>